

近江商人発祥の地・東近江。 「三方よし」の思想と徳育の力で、 新しい歩みが始まる。

滋賀県東近江市

琵琶湖東岸から三重県の県境まで、湖東平野のほぼ中央に位置する中核都市。万葉集に編まれた額田王と大海人皇子の相聞歌の舞台・蒲生野、1400年の歴史を誇る百済寺、聖徳太子の創建とされる石塔寺など古刹が点在し、古くから栄えた地であることを物語る。やがて交通の要衝となり、市が立ち、近江商人が育まれた。製造業などの他、肥沃な土地と愛知川の恵みを受けて農業も盛ん。総面積約389km²、総人口116,580人（2013年5月1日現在）



風情あるまちなみ

東近江市は2005年と06年の合併で誕生した新しい市で、東近江JCも2007年に旧八日市JCと旧能登川JCが合併した新しいLOMです。歴史ある土地に新しい枠組みが敷かれ、新たな時代を創ろうと動き出した東近江に、さらに新しい風が吹き込まれました。今年2月17日に投票された東近江市長選挙で、現職を破り初当選された小椋正清市長です。新政策を打ち出し、新たな東近江市づくり燃える小椋市長をお迎えし、東近江JC第7代理事長回渕宏治君と、東近江市の魅力とJCの可能性について語り合っていました。

東近江市長

小椋正清

おぐら・まさきよ

1951年生まれ／76年滋賀県警採用後、長浜警察署長、県防災危機管理監、防災担当の県理事員を経て、2013年2月27日、東近江市長に就任



第7代理事長

回渕宏治

まわりぶち・こうじ

1974年生まれ／2001年旧八日市JC入会（07年に合併し東近江JC）／11年専務理事／12年滋賀ブロック副会長／株式会社花治専務取締役

東近江の 「芝生」は青い！

回渕 東近江市長にこの2月末に就任されて3カ月が経ちますね。市長選挙の際には私たちが主催した「マニフェスト型公開討論会」に参加いただきありがとうございます。

小椋 まちづくりに対する自分の想いを、愚直に説明いたしました。当日は300人の来場者があつたようです。

回渕 はい、盛況でした。候補者同士のガチンコ討論もあり、主張の違いが鮮明になって投票の参考になりました。

小椋 その討論会で何度も口にしましたが、東近江市はどこを見ても「歴史と伝統と文化」が凝縮した素晴らしいまちです。この数

年間で1市6町が合併して、JR新快速が停車する都市部も、田園風景が広がる農村部もあり、肥沃な土地と豊かな水に恵まれ、米や近江牛も美味しい。歴史的な神社仏閣も多く、琵琶湖の夕景は本当に美しいです。

回渕 さらに、近江商人発祥の地でもあります。『売り手よし、買い手よし、世間よし』の『三方よし』は、満足できる売り買いができ、社会貢献もできるのがいい商売だ、という近江商人の心得を謳った言葉です。私たち東近江JCは、市町の合併に伴って2JCが合併して6年前にできたLOMになります。一昨年は5周年を機に今後5年間のビジョンを発表しました。その中では、『三方よし』をベースに、自分のことだけでなく、相手や地域のことを

考えられる気質を育ていきたいと訴え、『夢を語るまち』を大きなテーマとして打ち出しました。

小椋 東近江は確かに『夢を語る』ことができるポテンシャルの高いまちです。自然は豊かで、医療機関も充実しつつあり、大学もあり就職先も少なくない。東日本大震災以降、人の価値観は変わり、内なる幸せを求める傾向にあります。その観点で言えば、こんなに居心地のいい東近江は誇るべきまちなのですが、その価値に市民自身は気づいていないですね。他人の芝生ばかり見るのではなく、自分の芝生の価値にそろそろ気づきましようよ、と言いたいです。

回渕 その点では、JCでは地域にある素晴らしいものを「地域のたから」といって発掘する活動が続けているんですよ。

小椋 JCを中心に若者が考えて行動しようとしているムーブメントは私自身も感じています。JCが主催される「二五八祭」もその一つですね。

回渕 はい。近江商人のルーツを思わせる話ですが、この地域には昔、2と5と8の付く目にフリーマーケットのような市が立っていました。「二五八祭」の名前の由来はそこからで、道路500mを歩行者天国にして開く県下最大級のフリーマーケット、子ども向けの職業体験、ステージや飲食コーナーなど、毎年工夫を加えながら開催しています。今年で37回目となり、今では市民も待ちわびる、まちを代表する祭りに育ちました。

触れ合いを取り戻し 徳育の充実を

回渕 しかし、昔は市が立ち賑わった商店街も、今はシャッターが目立つようになりました。

小椋 郊外の大型店が今は人気ですからね。ただ、そろそろ回帰本能が働いて、買い物をする時にコミュニケーションが楽しめる商店街に人が戻ってくると私は感じています。だから今、商店街の

アイデンティティをもっと出して、薄利多売店と住み分けできるよう、工夫と努力をする時ではないでしょうか。

回渕 はい、消費者のニーズを研究して個性のある商店街を目指し、自分たちの手で若者が留まり、自給自足のまちにしたいと思っています。そして愛されるまちには人と人との触れ合いが大切です。ところが今、地域コミュニティが崩壊しつつありますね。

小椋 それは私も憂慮しています。東近江のような水が豊かな地域では、子どもは川で遊ぶことで、魚を取り、危険に遭遇しては仲間助け合い、人の痛みを知り、大人に叱られ、川という場で触れ合いと文化を育んできました。ところが今の川はコンクリートで覆われた上に危険だからと子どもから遠ざけられ、地域間・世代間の触れ合いも断絶されました。結果、生活から文化が遠ざかり、子どもたちは挨拶や感謝、目上の人を敬うことができなくなりました。今、改めて道徳の重要性を痛感しているところです。

回渕 今年は日本JCで徳育に力を入れており、東近江でも「徳育ゼミナール」というプログラムで、感謝する大切さなどを広めよ



1. 毎年秋に開催される「二五八祭」。近江商人のまちらしく、祭りのフリーマーケットはこの賑わい！

2. 「二五八祭」の「童のコーナー」では職業体験も。うまくできたかな？

3. 昨年開催した「夏休み木工教室」では、掛札を作り夢や目標を書き込みました。部屋に飾って有言実行！



2



土俵を持つ小学校で開催する「わんぱく相撲滋賀県大会」。熱戦に大人たちも手に汗握る。



3

